



【今週の暗唱聖句】

人となって来たイエス・キリストを告白する
 霊はみな、神からのものです。それによって
 神からの霊を知りなさい。第一ヨハネ4：2

●ヨハネが第一ヨハネの手紙を書いた1世紀末、早くもイエスに関する間違っただけが流布されるようになっていた。どのような文化でもその文化特有の「世界観」があり、自分の文化外から入ってくるニュースやメッセージは自分の世界観の色眼鏡を通して理解されるので多くの場合、正しく伝わらないのである。

●広大なローマ帝国におき、地中海沿岸の西方はラテン文明圏、東方はギリシャ文明圏であった。東方は後にグノーシス主義と呼ばれるようになる「霊肉二元論」的世界観を持つ者たちが多く、この考えでは霊的なことは聖く「善」であり、肉的／物質的なものは汚れており「悪」であった。このような感覚をもった人々に福音が伝えられたとき、神聖であるはずの神の御子が「肉体」をもって地上に現れた、と考えることは受け入れ難いことであつたらう。

●問題はこの先で起こる。伝えられた事柄がどんなに受け入れづらくても、学びつづけて自分の考えを徐々に変えて行くか、それとも伝えられたことを「自分の感覚に合わせて」解釈し直して行くか、人はどちらかの道を選択するのである。キリスト教の異端の起源を辿って行くと必

ず、後者を選んだ人物ないし、人々に行き着くのである。

●こういう人々は神の言葉を深く学んだ結果見えてくる、神の計り難い知恵と愛、憐れみに関する理解に行き着く前に、非常に「浅いレベル」で聖書の教えを投げ出してしまい、自分の都合に合う偽物をつくってしまうのである。その結果、異端は「教えの書き換え」を繰り返すことにもなる。なぜなら聖書が深いレベルで保っている統一性という岩盤に突き当たる時、彼らは自説を曲げなければならなくなるからである。

●しかし、問題をさらに複雑にするのは「超自然的な啓示」である。悪霊は存在するのであり、悪霊の専門分野は人々に「夢・幻・啓示」を与えることである。だから新興宗教の「教祖」たちが啓示を受けた、と主張することは何ら不思議なことではない。偽物もあろうが、事実「啓示」を受けたからこそ、それまでの生活や仕事を辞めてまで教祖になったりもするのである。しかし聖書はそのような「啓示」を与える霊でさえ鶴呑みにしてはならないと警告しているのである。■



【今週の英語】 Adrian Rogers "Adrianisms"

▼It's better to be hated for telling the truth than loved for telling a lie. 偽りを語って人に愛されるより、真実を語って嫌われる方がましだ。■

【先週のMESSAGEより】

狭い門から入りなさい.....マタイ7:13-14...ルカ13:22-30

神の前での罪を悔い改め、イエスの十字架を受け入れ、神に従うことを選ぶこと、そしてその道を歩む続けることは、狭い門をくぐり、狭い道を進むのにととえられる。なぜか。アダムとエバが罪を犯して以来、人は神の道に従うことがなにか束縛されること、制限されることのように感じ、自由でいられなくなるように誤解するようになったからである。事実は逆なのである。水中にある魚が一番自由であるのと同じように、神の恵みと愛の中にある人間が一番自由なのである。そして一見、狭く見える門の内側こそ、無限に広がる神の祝福の世界なのである。人は神から離れている時に「自分」という牢獄に捕らわれてしまっているのである。



中国のある伝道者の詩

いのちの水・計画 2001. 5-6月号より

かつては、自分を表すことが好きだった

今は、キリストのうちに隠されたいと願う

かつては、人にほめられることを求めていた

今は、キリストに喜ばれたいと祈る

かつては、奉仕の成果を求めていた

今は、主のみこころが成し遂げられることを喜ぶ

かつては、知恵によってみことばを語っていた

今は、聖霊のみ力に頼る

かつては、思いのままに人をさばいていた

今は、キリストにあって自らを顧みる

かつては、奉仕の忙しさを喜んでいて

今は、耐え忍んで待つことを学んでいる

かつては、人にほめられる絶妙なみことばの

解きあかしを求めた

今は、ただ、み霊の光に照らされることを喜んで

かつては、経験によって語った

今は、聖霊の導きによって語ろうとしている

